



一店紹介

トア・ロード  
フランス菓子のお店  
ドンク

神戸の中心点はこのあたりと、毎年神戸最高の土地評をされているのがこの「ドンク」附近。ドンクからセンター街が始まり、ちようどトア・ロードの真中にもなる。

神戸の中心点が洋菓子の店というのも楽しいことだ。店のスタイルは開放的で明かるい。

店主の藤井幸男氏は若くて朝氣のある神戸っ子。

創業明治三十八年という老舗、現在の場所に開店したのは昭和二



(ロマンティックなムードの2階の喫茶店)

十六年幸男氏はさしづめ洋菓子二代目というところ。

一階は洋菓子、二階はロマンティックな喫茶店、向い側にハイティーン向のサウンドイッチパーラーと多彩な構えて、神戸っ子の人気を集めている。

「純粹のフランス菓子を創り出すため、帝国ホテルのベーカー部の主任を招いて、スタートしたんですが、幸いお客様から正統の味に好評をいただき、研究を重ねています。」

神戸は外人さんとの接触も多く

それに、阪神間は繊細な味覚をもったすぐれた客層なので、菓子の味も洗練されて来るんですね、いまでは、独特のフルーツ菓子パンでは、フロワッサン、ブリオッシュ、クッペなどにドンクの味として人気があるようです。

工場も芦屋に建設中なんですが自家製造によって、大メーカーにはない、個性のある洋菓子をつくって神戸最高の味をつくり出したいと思っています」と藤井氏の洋菓子のフロンティアぶりをうかがった。

(小泉)



# 波止場

細野耕三  
中西勝・画

△前回までのあらすじ▽

私―阪神日報の海運記者は、波止場で事故死したア  
ンコの死因を追求した。アンコ吉田は砂糖を掻払っ  
てリンチを受けたのだった。

私は足で調べて歩いた。手配師の隆が、吉田の加  
害者にされた。真実を追求する私の身辺にも黒い翳  
が忍びよった。同時に何故か最初は記事にのり気だ  
った編集局長の顔も曇った。そして来るべき時がき  
いたので。

私が興港会の幹部から呼びだしを受けたのも、その前  
後だった。興港会というのは二次下請会社の組織してい  
る親睦団体である。

私は受付に迎えのものが名刺をだして「自動車を待た  
せてありますから」と云ってきたとき、「とうとうきた  
な」と思った。

社会部の元の仲間は「奴ら荒くれの若い者を使ってい  
るから、社長とか専務といっても商社のそれとは違う。  
充分気をつけろよ」と心配してくれた。なかには留守を  
使えばよかったのに、とか、危険だから行くなという者  
もあった。

「どこか知らんが、とにかく行ってくる。行った処か  
ら電話だけはしておくよ。万一の場合、スクープできる  
ようにな」

私は冗談のつもりで云った。少くとも登録されたレッ  
キとした会社の重役連が暴力行為に及ぶとは考えられな  
かった。だから私は仲間が心配するほど不安を抱いてい  
なかった。

迎えにきた若い者といっても二十七八才の男も丁重を  
極めた物腰だった。自家用車で送り込まれた先は、神戸  
の山手にある花街でも一流の料亭であった。

玄関には角刈りにした小頭風の男が二人、私のかかと  
の減った靴を押しいたたくようにして脱がせ、部屋への  
案内はまた別の二人が「ようとそ、おいで下さいました  
お待ち兼ねでございます」と先に立った。いささか時代  
がかかったヤクザの演出を思わせた。

床を背にして坐らせた。社長、重役、代表社員と肩書  
きのついた名刺を次々と渡された。どの手も、骨が太く  
大きかった。あいつや言葉つきは、不気味なほど丁寧  
で、甘く見てやってきた自分の不用意さがくやまれた。

恩田組の代表社員と名乗った四十がらみの男は、この  
席を設けた首脳者なのである。

「今度は榮組の事から、いろいろとお世話になりました」と静かに、何んでもない事を云われた時は、言葉の返しようがなかった。昼間だというのは、芸妓が座に入り、酒が廻りだした。私はいつまでたっても、呼びだしをかけた先方の本論に移らないので、焦った。

「今日は」

「まあゆっくり、酒でものみながら、とにかくいろいろお世話になったお礼を兼ねましてね」

何度も相手の真意を引きだそうとするのだが、そんな調子でかわされた。

「むしろ、腕一本でここまでのしあがってきた。いはば叩きあげてすわ。そやさかいに口不足でしてな。早い話が浜には、浜の特殊事情という奴がある。例えばアンコですな。アンコだからといって、別に人間扱いにしないわけではあらへん。然し、人間扱いにでけんやつもおる。積荷を抜く、船員の部屋から搔払いをやる。そんな奴が時々おるよって、会社の信用にかかわることもあるので時には、見せしめにオキウを据えることもありまんがな」

「吉田もオキウでしたか」

「さいな。だがあれは手配師が自分の立場を考え過ぎて、ちとやり過ぎましたわい」

「吉田を殴ったのは隆だけでしたか」

「多分、そうでっしやる、警察の方で調べても、そういうとるんですさかい」

「然し」

「まあ、むずかしい話はよして、今日は顔つなぎにワーツと行きましょや。おたくさん若いや、頭もいいし、度胸もある。腕ぶしはどうか知りまへんがな。実はな、おたくさんが来るか来ないか賭けとったんや。わいは来ると思った。あれだけの記事を書く男やったら、それだけの覚悟でやつとる。なあ、そうでっしやる。やっぱり来よった。いい度胸や。惚れたで。所で、事件はもう落着いたのやさかい。こん辺で手打ちといっちゃなんだが

今後はわい等の言分も書いて貰いたい。それは出来ないとなれば、この辺で、もう。記事はひっこめてもええと思ふんやが」

要するにニユースキャンペンを中止してほしいという申入れなのだ。

「事件担当は社会部に廻わしました」

「というのは、関係ないという事かいな」

「関係はあります。ですが記事をだすことは新聞社の方針ですし」

「さよか。まあほどほどにな。浜には浜の特殊事情がありますさかいな。進駐軍でも、こいつはどないにも出来なかったのやで。わいらが若い者を押えておきますさかい、その辺頭のええあんたさんの事や、よう考えてな」

「解りました。話はそれだけですか」

座は白け切った。私の直線的な喋り方は相手の気分を害したらしい、だが先方の方が一枚も二枚も上てであつた。

「堅い話は終った。おい、つがんかい」

妓達が急にはしやぎだした。私はすぐ立ち上がったが相手の要領を得た引とめにかかって夕方まで座にいた。社に帰ったのは五時頃だった。

私は机に戻る前に整理部に寄った。いつもの習慣で自分の書いた記事がどう扱われているのかを知るためだった。

「きていない。あしたの朝刊の分だぜ」

「ええ」

係りはちよつと云い難くそうに口ごもった。私は「おかしいな。二時にちやんと部長の所に原稿をだしておいたんだが」

私は部長の所で原稿が押えられたことを直感した。興港会の幹部は私のと妥協と合せて両面作戦の手を打ったのに違いない。私はもう幾分興奮して、部長の所へ真直ぐに行った。部長の机の上には、くせのあるもの字の原稿が直いしめられた。



「夕方の汽車で東京に出張したよ」  
 「くそ！さんざんハツパをかけておいて」  
 「こうなる結果は解っていたのだがな」

「部長、じゃ局長をはじめ社の幹部は、港湾関係の圧力に屈伏したわけですね」

「そうはつきり云えんが」

「はつきりして下さい。ここまで来てですよ。今更」  
 部長は頷いた。この問題を局長に掛け合いに行った時部長が示したあわれむような淋しそうな笑いが、口のあたりに漂った。

「判るよ。その気持は。僕だって新聞記者のはしくれだ。しかし客観情勢つものがある。その上だ二週間も毎日同じ事件を扱ってはタイミングが合わなくなるといふ事も考えなくてはね」

「局長の口実ですよ、そんなの。全港湾のストライキに利するからと云うのが、本音でしょう。いいじあありませんか。真実は真実なんだから」

「まあ、そんな馳けだしたいな事は云うなよ。あと  
 は悪いようにしないから。」

私は原稿を掴むと、屑箱に叩き込んで席を蹴った。まんまと局長に一杯喰わされたのだ。局長の言葉を素直に取った私が馬鹿だったかも知れない。

「だが、そんな事が許されてたまるか」と私は心の中で怒鳴った。

私はその翌日から一週間、無断欠勤をして社にも記者クラブにも顔をださなかった。

私が三田支局へ転勤命令を受けたのは、それから間もなくだった。私は社をやめようかと思った。だが部長に慰撫されて退職願いだけはださなかった。

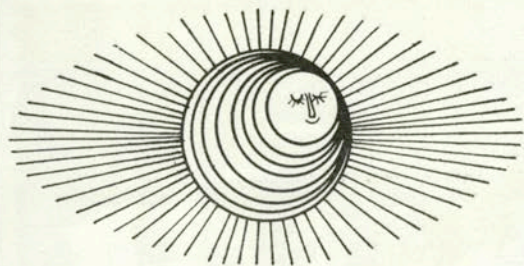
記者クラブに挨拶に行くと、もう他の社の連中はみな私の転動を知っていた。私は自嘲するようにな

「やり過ぎて島流しさ、これからという所でね、これがおたくのような大新聞ならなあ」

「部長、ひどい、ひどすぎますよ」

「だがね、青木君、地方紙じゃあ一流中の一流紙であるK紙さえ、どうやら雲行きがあやしくなってきた。まして本社の力ではね。それに、局長の意見もあって」

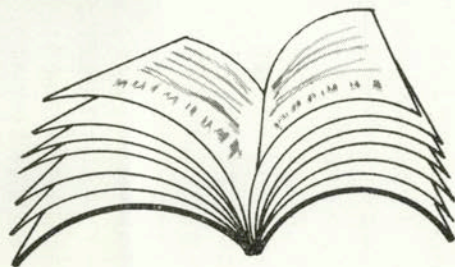
「局長は何処ですか。」



暑中御見舞申し上げます

太陽製版KK

神戸市兵庫区淡町一丁目高架3号 / TEL 製版部 ⑤ 0558・0586  
写植部 ⑥ 4416



暑中御見舞申し上げます

三急出版

TEL ⑥ 0897

私はしみじみそう思った。阪神日報では選挙がある度ごと金権候補のチヨウチン記事を書くのだ。そうしなれば社の経営さえ立たないのだ。そんな小っぱけな新聞社が、大資本の三大倉庫・六大元請会社を相手にしてケンをできない事は、最初から充分解っていたつもりだったが、やはり鉛のようなものが胸の底に重たく残っていた。「まあ有給休暇のつもりで、一年ばかり田舎でのんびりするよ。」

「然し勇敢にやってのけたな。あの記事が発端になって、衆議院の港湾労働法審議会に持ち込まれたし、議員の実態調査にまでなったんだからな。もってめいすべしだろう」

「ああ無駄じゃなかったと思うがね」

私は笑った。だが云い知れぬ淋しさが、自分の笑い声に煽られて燃え広がった。視線を窓外に移すと、波止場が見えた。波止場は何事もなかったように、今日も動いている。出船なのであろうか、一きわ胸に應えるような

汽笛が聞えてきた。

手配師の隆が証拠不十分で釈放されたと知ったのは、私が三田支局に移ってから暫くたってからである。私は一切がまた元通りになってしまった事を、自分の敗北感と合せて知った。

「アーさん、なんだいそれは」

年寄った支局長が声をかけた。私は薄笑いを浮べてへら竿をだしてみせた。

「こいつはいい竿だ。アーさんが釣りをするとはい発見だな。」

「これから、釣りにでも凝ろうかと思うんです。支局長、御指導をお願いします」

「ああ、その方はね。ここはいい池が多いから」

支局長は釣りの事になると、急に大声で喋りだした。

私はふと、いずれは自分もこの年寄った支局長のようになるのかな、と思った。

— 終 —

## ◆読者サロン◆

○「神戸っ子」を手にして思いつくままお便りいたします。

まず扉のポートレートは、とり扱いは難があると思います。内容そのものには異議はございませんが被写体の名を伏せ、アマチュアであったとしてもカメラマンの名をむしろ紹介し、またデータを掲げて下さる方がずっとオトナのやり方だと思いますが……。

苦言を提しましたが、これも御誌が神戸の文化面で何らかのプラスの面をうながすものであるようにと願う気持ちからです。

暑さに負けずがんばってくださいね。(生田区中山手丸林圭子)

○号を追って充実していく「神戸っ子」に目をみはる思いです。ただ企画がややポイントのずれたものも二、三あるようで残念な気がします。企画の個性によって読者

を固定させるのが定石ですから、その点、性格のはっきりしたものが欲しいと思います。総花的に散漫になるより、シャープな紙面を読者は要求します。

△カメラ戯評▽井戸端ジョッキイ▽リバイバル落語▽ユメを売る店▽ハコウベ・オール・ナイト・コース▽大いに期待しています。(葦合区、有井基)

○いつものことながら貴誌の表紙のステキなものには敬服させられます。七月の「布引の滝」は涼感があふれてよかったですよ。八月号の表紙が楽しみです。阪本知事

「旅さんまい」やはりうまいですね。れんさいとかーこんどは何を書かれるか興味シンシンです。全体に七月号は、岡部伊都子さんや、辻久子さんなど神戸っ子にはおなじみの方々が登場されたせい

か、これまでになく親しみをおぼえました。(須磨区、岩村高子)



## THE SECOND COVER

表紙の女性—吉川鈴代さんは高校時代テニスの選手だったというだけに、水泳・卓球とスポーツならなんでもOKという近代的なお嬢さんです。いちばんやりたいことは「商業美術」の勉強とか。愛くるしい瞳と、チャーミングな話しぶりが印象的。松蔭女子学院出身(舞子ヴィラにて)

撮影 衣川 宏

○連載「ここに神戸がある」の大ファンです。時代小説は好きじゃない私でもはすすかり司馬先生のファン。ポートレートから受ける感じでは、先生はきつとやさしい方でしょうね。いつまでも神戸を愛してくださいね。(灘区、木村佳代子)

## 神戸っ子案内

☆月刊「神戸っ子」を毎月お読みになりたい方、又神戸を離れているお友達にプレゼントなさりたい方は編集室にお申込み下さい。6ヶ月分500円 (送料共)

☆誌上の神戸銘店にはお客様へのサービスとして「神戸っ子」がおかれてます。

☆本屋さんに「神戸っ子」があります。文洋堂・国際会館1階、海文堂・元町3、漢口堂・ダイエー南

8月号の発行に色々とお世話  
いただいた方々

雄一子造ム英平夫楽勝渥二介郎七勝美男二雄城慧  
重正真伊都ト良芳喜勝孝健達芳高裏辰月  
木並崎部根淵西磯林本川川村中井西富井地崎杉  
青榎岡岡小大川小小古阪白滝田田永中福松宮百森若



## 編集後記

・「神戸には『市民の志士』が多  
いな」と司馬先生はおっしゃいま  
す。そうした『市民の志士』が神  
戸の繁栄のために手をつなぎあっ  
てくださったれば、どんなにステキで  
しよう。「神戸っ子」は、そうし  
たことに少しでも役立ちたいもの  
です。

・長嶋選手のインタビューの受け  
答えのうまさに、今さらながら感  
心させられました。身体に似合わ  
ず、声はいがいと金属性、反対に  
本屋敷選手は低音でした。「シ  
グ」「キンちゃん」と言う仲だけ  
にとでも楽しい対談で、夜の更け  
るのも忘れるほど。やっぱりスポ  
ーツマンはいいですね。スカツと  
してます

・「波止場」は今月で終りまし  
た。細野耕三氏にはまたの機会に  
再登場していただきましよういろ  
いろとお世話さまでした。なお来  
月号からは「波止場」にかわり、  
日常生活に密接した特集企画を計  
画をします。(1)

(おわび)七月号でレリーフ「日  
本画のホープ山手義正」は山平の  
誤まりでした。また「涼線を求め  
て」の神戸電鉄、有馬温泉遊覧券  
三六〇円は二三〇円、小人三〇〇  
円は一六〇円。テント用具使用料  
二、三人用一八〇円は二〇〇円、  
五人用二五〇円は二八〇円、十人  
用四五〇円は五〇〇円、国鉄神戸  
―神鉄湊川經由一七〇円は一九〇  
円とそれぞれ訂正いたします)

しあわせをあなたの家庭に運ぶ  
よい商店、よい商社へのご招待

(スモール版)

神戸日野自動車K・K	2
マキシン	2
北村真珠K・K	2
ちんがら監	7
田崎真珠K・K	7
柴田音吉洋服店	8
風月堂	8
マルゼン	12
元町パザール	12
ヒロタ	19
国際コンタクトレンズ研究所	20
富田屋	20
美容センター	20
兵庫チカイアソウK・K	23
トアローデデリカテッセン	32
パウリスタ	32
芸夢	33
未精製稲店	33
エスター・ニュートン	33
スギヤ	33
二恵洋服店	34
美田時計店	34
タジマ	34
神戸屋	34
シラサ	35
トーレイ洋装店	35
サノヘ	35
元町電機	35
太田ベッ甲店	36
つばや	36
神戸シャツ	36
長崎堂本店	36
イクシマヤ	37
永田良介商店	37
淡洲堂	37
千秋堂	37
フナキヤ	41
ドンク	41
ユーハイムコンフエクト	表3
大阪ガスK・K	表4

- 本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は「神戸っ子」広告による旨お書き添え下さい。
- 広告主の住所不明な時は「神戸っ子」編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」に広告掲載御希望の向きは「神戸っ子」営業部宛御照会下さい。「神戸っ子」編集室



北欧の銘菓

クッキー

ピラミッドケーキ

バアウムクーフェン(ドイツ名)

ムンデッド

# ユーハイム コンフェクト

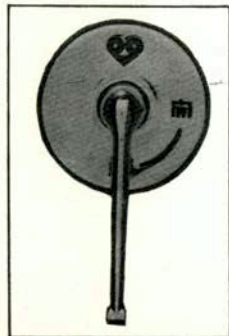
工場 神戸市葺合区熊内町1丁目・②2336  
神戸市三宮町2丁目・③4314  
三宮店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)③0156・7343  
芦屋店 省線芦屋駅前通り・芦屋5605  
大丸店 神戸大丸地階銘菓街  
阪急店 大阪阪急地階食料品部



大阪ガス



# 湯かげんもコック一つで!



■つかりながら自由に湯か  
げんできる便利さ ■ススや  
灰がでずとても清潔 ■残り  
火・火の粉の心配がなく絶  
対に安全 ■わきあがり及早  
く経済的。

夢みる暮らし



## OSAKA GAS

# ガス風呂

正価 14,300円から・10ヵ月払 15,000円から

月刊「神戸っ子」

発行所／神戸市真合区御幸通八丁目九ノ一  
昭和三十六年八月十五日発行 毎月一回

神戸国際会館一階  
編集／五十嵐恭子

TEL(2)七〇三七  
発行／小泉康夫

頒価七〇円  
(送料10円)